

岡山市の環境NPOグリーンパートナーおかやまが、瀬戸内海国立公園の天目山展望地（玉野市上山坂）に自生するコバノミツバツツジを増やす活動

に励んでいる。4月18日には現地で自然体験学習を兼ねた植栽イベントを計画しており、里山の景観を取り戻そうと張り切っている。

# 里山の景観取り戻そう

## 自生ツツジ育てる

### 来月18日植栽イベント

## 玉野・天目山展望地でNPO



天目山に移植するコバノミツバツツジの苗の生育状況を嶋准教授（右端）と確認するNPOグリーンパートナーおかやまのメンバーら

コバノミツバツツジは、丘陵地などに群生し4月にピンクの花を咲かせる。同NPOは2007年秋、県などの許可を得て現地で種子を採取した。

岡山大学大学院環境学研究所の嶋一徹准教授（土壌生態管理学）の指導で同大のほ場で苗を栽培しながら、植栽候補地として同展望地南側斜面など約2500平方メートルで下刈りや落ち葉かきを続けてきた。

当初、苗の植栽は11年春を予定していたが、ほ場での生育状況が良好なため、1年前倒して実施することに

した。18日は約300株を植栽する。継続観察しやすいように、苗には参加者の名前を入れた札を付ける。

嶋准教授は「開花までは2〜3年かかると思う。里山再生という目標に向けて持続的な取り組みが大切」と話す。

天目山周辺のコバノミツバツツジは、里山として住民が手入れをしていたころは多く見られていたが、国立公園編入（1956年）により樹木が自由に伐

採できなくなったことから、個体数が減っているという。

植栽イベントは午前8時半〜午後1時（小雨決行）。参加無料。9日までに同法人（086-267-2478）に申し込む。

藤原瑠美子代表は「天目山や貝殻山周辺は眺望も素晴らしい。家族で花見を楽しむことができるスポットにしたい」と意気込んでいます。

（池葉須則夫）